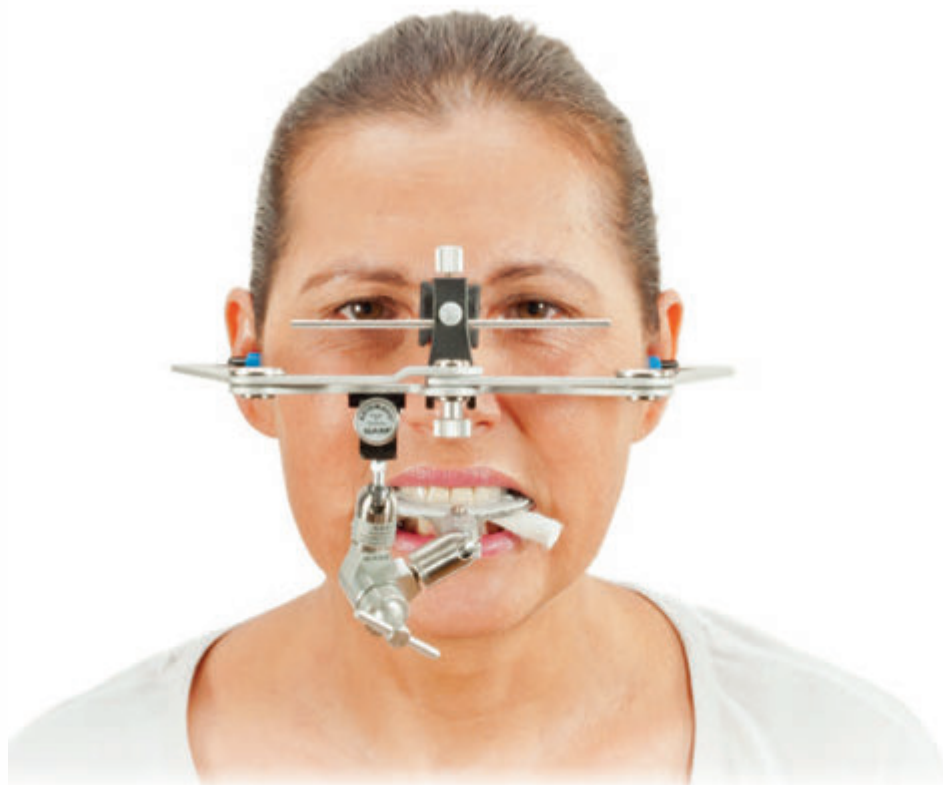


SAM

FACEBOW TRANSFER MANUAL



JM Ortho Corporation

目次

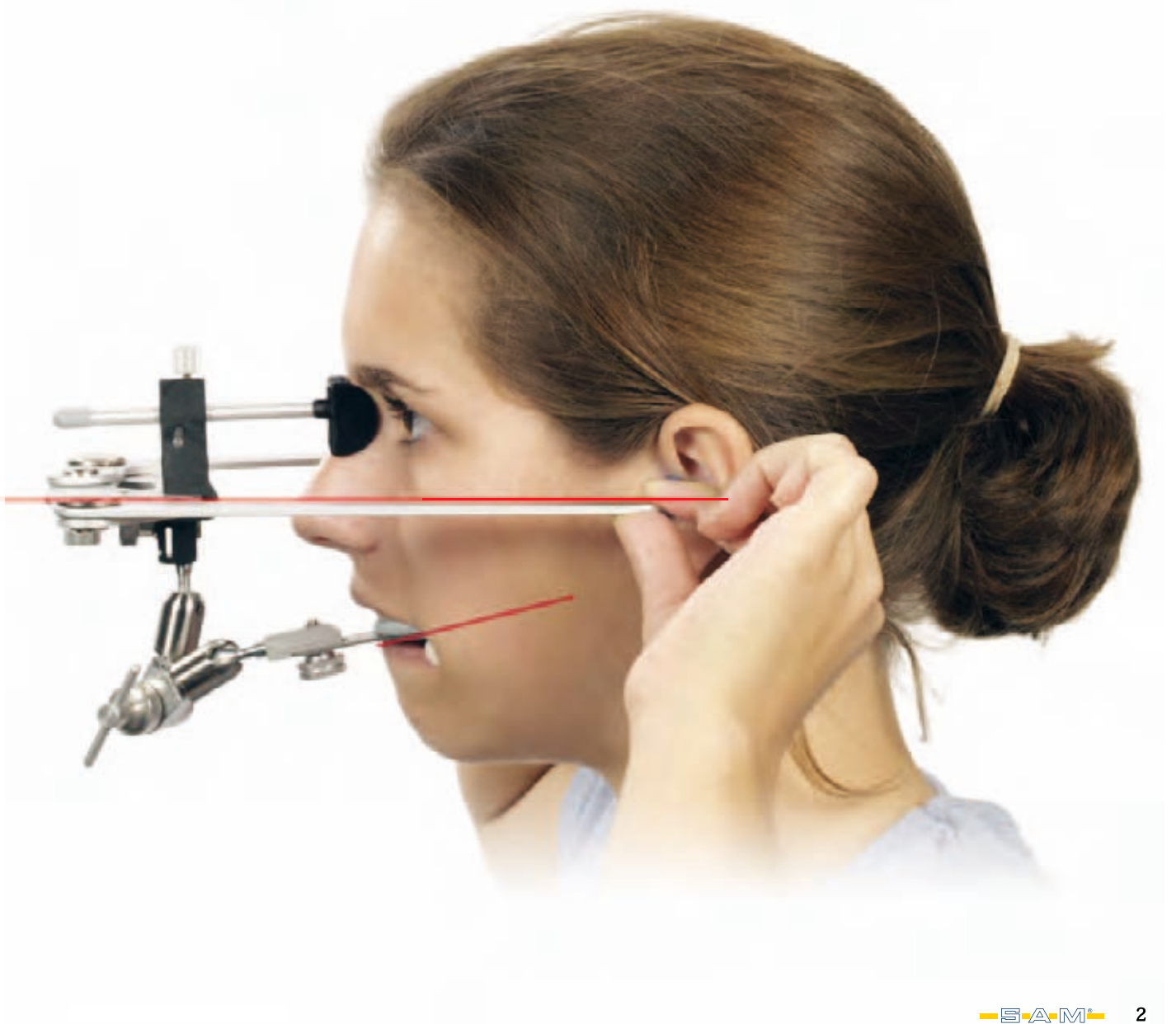
フェイスボウによる上顎位採得 . . .	P.3
咬合器へのマウント . . .	P.10
各アイテム . . .	P.13

審美性と機能性を備えたフェイスボウ

SAMのフェイスボウは頭蓋骨上でつり合い、自動的にバランスを保つように設計されています。

ディスプレイの青いイヤークラップにより、外耳道での正確なポジショニングを衛生的に行うことが可能です。

瞳孔線の水平性を保つナジオンリレーターは、瞳孔線とフェイスボウの平行関係を保ちます。また、シリコン製のナジオンサポートは患者さんの負担を軽減します。



フェイスボウによる上顎位採得

フェイスボウの準備(1)

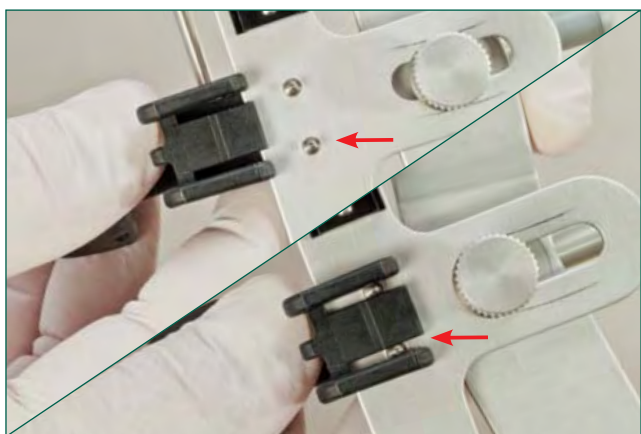


青いイヤープースキャップ(ATB240)をフェイスボウの黒いイヤープースに取り付けます。

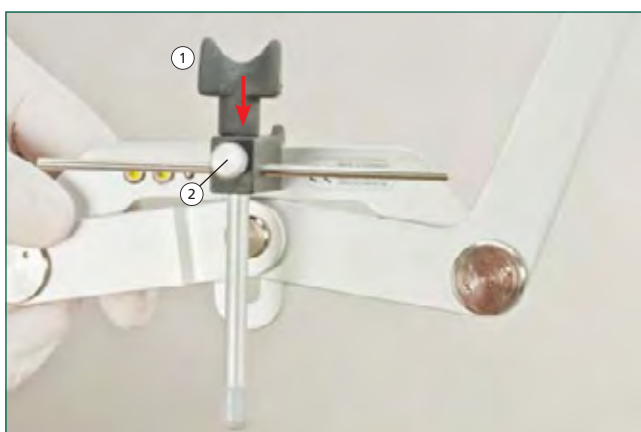
※ディスプレイイヤープースキャップ(ATB240)はフェイスボウを使用毎に交換して、使用済みのものは廃棄してください。



切れ目のある方が外側(①)、平らな面がある方が内側(②)です。



ナジオンリレーター(ATB394)のスリット部分をフェイスボウ(ATB303)の2本のガイドピンに合わせ、止まるまでしっかり差し込みます。

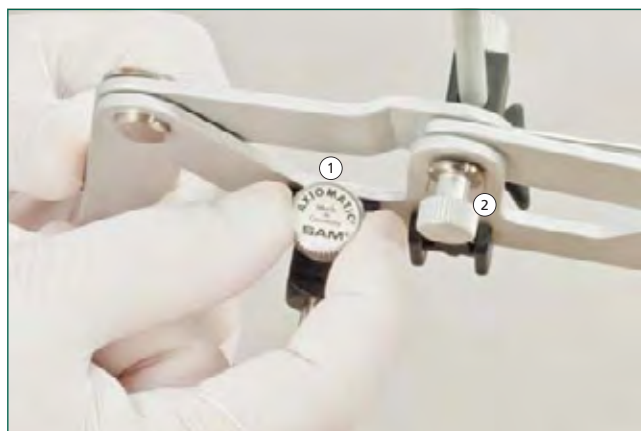


ナジオンサポート(①)は後方(矢印方向)いっぱいにして、スクリュー(②)で軽く固定しておきます。

フェイスボウの準備(2)



トランスファーフォークアッセンブリーは、フェイスボウの底面にあるアタッチメント部分にスライドさせながら奥に当たって止まるまでしっかり差し込みます。



①のスクリューを軽く締め、フェイスボウにしっかりと固定させます。
フェイスボウ側のスクリュー(②)は緩めておき、アーム部分が自由に稼働できるようにしておきます。

ATB395



トランスファーフォークアッセンブリーは、2種類あります。

左写真、「アキシオマティックトランスファーフォークアッセンブリー(ATB395)」は、クランプ1点留めタイプです。関節構造を有しており、赤矢印のスクリューを締めることで全体が固定されます。このタイプの場合、中央のクランプを軽く緩めておきます。

ATB305



左写真、「トランスファーフォークアッセンブリー I-NT(ATB305)」は、垂直的移動、平行移動のクランプ2点留めタイプです。(赤矢印2カ所)

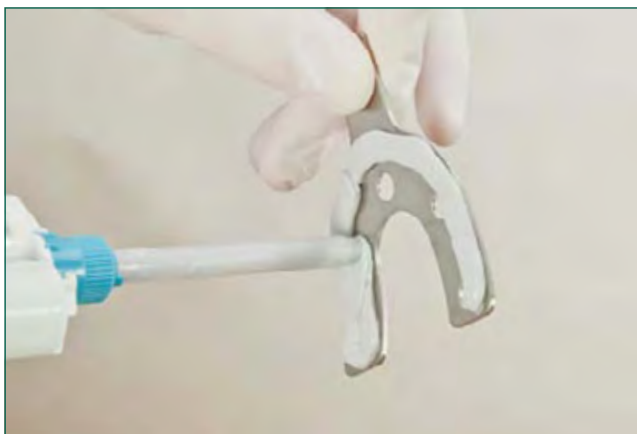
このタイプの場合、2カ所のクランプを軽く緩めておきます。

トランスファーフォークの準備



次に以下の器材を準備します。

- 1) 滅菌処理されたバイトフォーク
- 2) 咬合採得用材料
- 3) コットンロール
- 4) デザインナイフ



バイトフォークの上面に咬合採得用材料を、薄く一層盛ります。



バイトフォークの中心を正中に位置するようにし、上顎歯列の圧痕を付けます。材料が硬化するまで動かせないようにしてください。



材料が硬化したらバイトフォークを口腔内から取り出します。

必要に応じて圧痕の咬頭頂部以外(小窩裂溝や頬舌面等)はデザインナイフでトリミングしてください。

フェイスボウの取り付け(1)



バイトフォークを上顎に合わせながら口腔内に戻し、小白歯の辺りでコットンロールを噛んでもらい固定します。

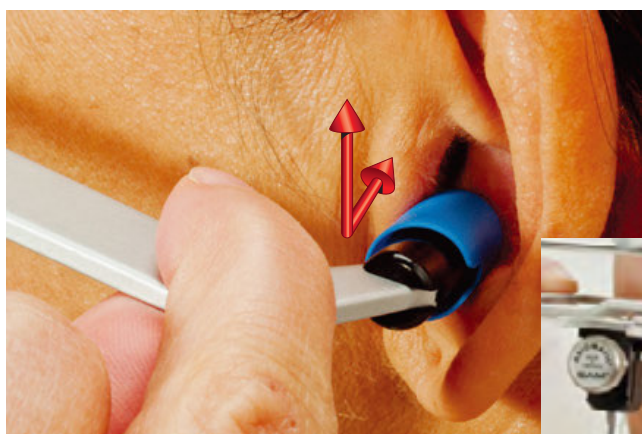


患者さん自身で、親指と人差し指でイヤープース近くの部分を保持してもらいます。



そのままフェイスボウのイヤープースを外耳道に挿入してもらいます。

注意！
外耳道への挿入は慎重に行ってもらってください。

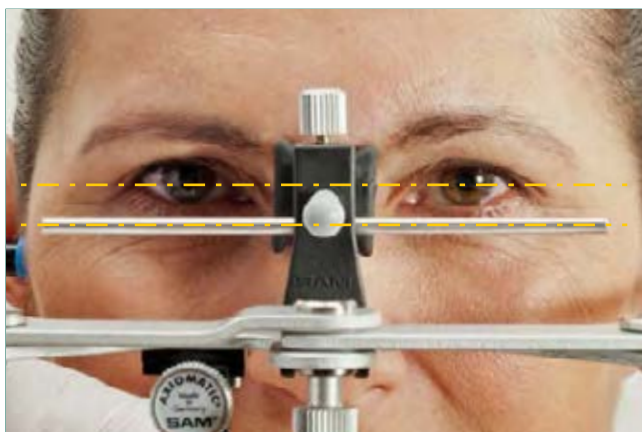


次に、患者さんにイヤープースを前上方に持ち上げながら、耳道の内方向に押すようにセットしてもらいます。

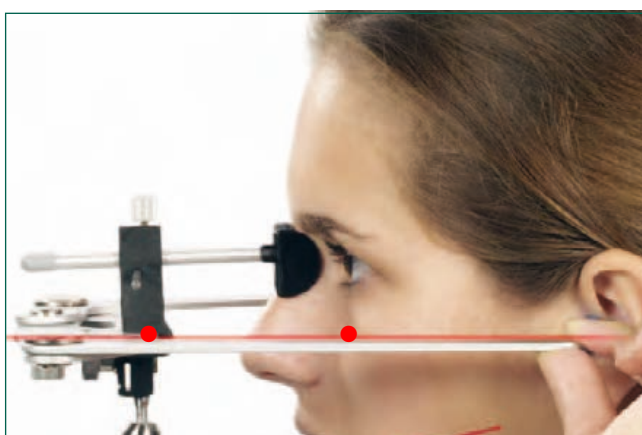
セット完了後、フェイスボウ前方下にあるスクリューを締めてアームを固定します。



フェイスボウの取り付け(2)



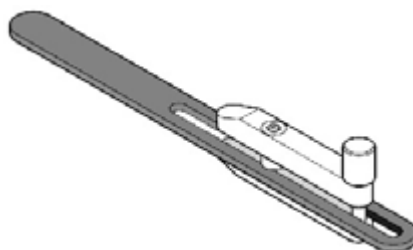
患者さんが適切な位置でフェイスボウを保持している間に、術者は両瞳孔線とナジオンリレーターについているガイドが平行になっているかを確認してください。



同時に、フェイスボウの上面が眼窩下縁と平行になるようにしてください。
眼窩下縁の高さが左右で大きく異なる場合は左目を目安にします。



別売のオルビタルリファレンスポインター (ATB235/取寄商品)を用いることで、眼窩下縁の位置を指し示すことができます。



ナジオンリレーターをナジオンに当て、両瞳孔線とガイドが平行であることを再度確認します。

※子供など、ナジオンリレーターが上手くフィット出来ない場合は、ナジオンリレーターとナジオンの間にパテタイプのシリコン印象材を挟むことでよりフィットします。ただし、シリコンを挟むことによって位置がズレてしまう可能性もあるので、注意して行なってください。

フェイスボウの取り付け(3)



適正な位置であることが確認できたら、少し強めにナジオンリレーターを押し込みスクリューを固定します。
患者さんに保持してもらっていた手を放し、固定したフェイスボウが上下に動かないようでしたらセット完了です。



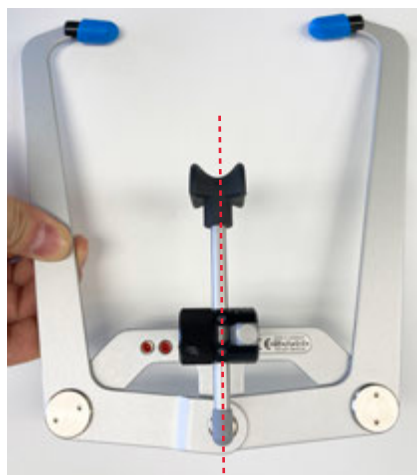
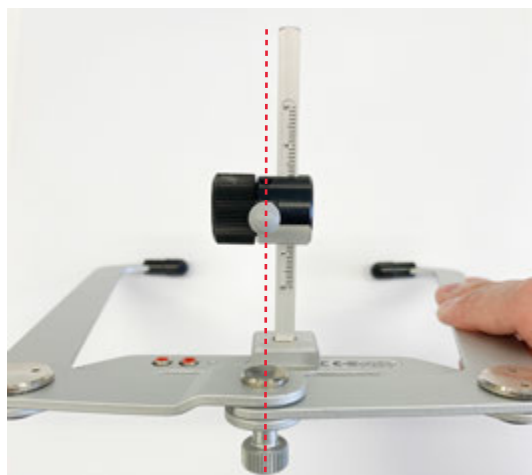
※ フェイスボウキット付属のナジオンリレーターは、ナジオン-オルビターレ間が25mmの固定式となります。



ATB304
アジャスタブル
ナジオンリレーター

※ 子供など、ナジオン-オルビターレ間が狭い患者さんにはパッドの高さが調節可能なアジャスタブルナジオンリレーター(ATB304/別売)が有効です。可動域は50mmです。

ご注意：
ナジオンサポート(ナジオンに当てる部分)がフェイスボウの中央に来るようにセッティングしてください。



バイトフォークの接続・固定



※例では、アキシオマティックトランスファーフォークアッセンブリー(1点締め式)を使用していますが、トランスファーフォークアッセンブリー I-NT(2点締め式)も過程としては変わりありません。

トランスファーフォークアッセンブリーが自由に稼働できるまで、トグルスクリュー(クランプ)が緩んでいることを確認します。



バイトフォークとトランスファーフォークアッセンブリーを接続してスクリュー(①)を固定します。

※スクリューが下向きになるように接続すると、スクリューが締めやすくなります。(左下写真参照)

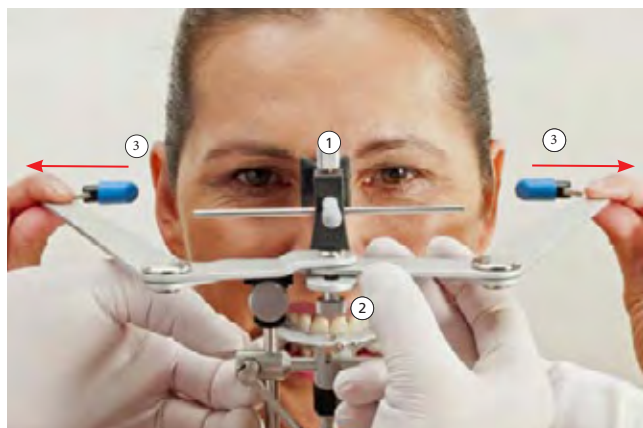
次に全体を固定する為、トグルスクリュー(②)を締めます。

※トグルスクリューの締めすぎはネジやネジ穴等が壊れて、次第に固定されなくなる可能性があります。あらかじめジョイント部分が固定される締め具合を確認することをお奨めします。

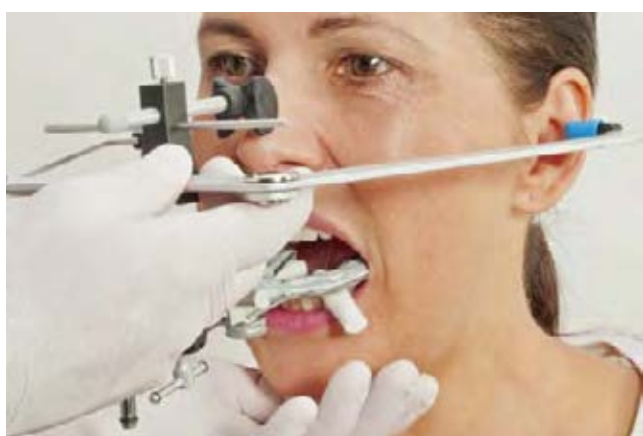


これで上顎位採得の完了です。

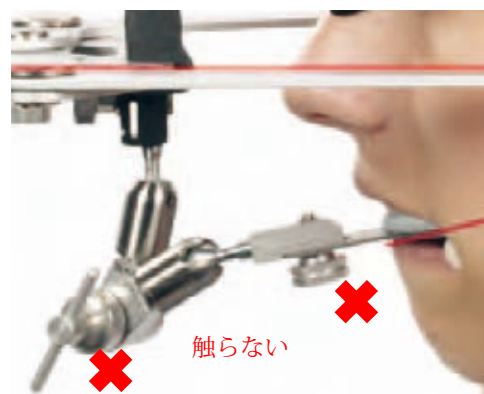
フェイスボウの取り外し



ナジオンリレーターのスクリュー(①)を緩めます。
次にフェイスボウ前方のアームを固定しているスク
リュー(②)を緩め、アームを患者さん自身に広げても
らいます(③)。



患者さんに口を開けてもらい、術者はフェイスボウを
斜め下方方向に引くように、トランファーフォークと
フェイスボウの位置関係が変わらないように気を付け
ながら口腔内から取り外します。



フェイスボウからトランファーフォークアッセンブリー
を取り外します。



！注意！
アッセンブリーのジョイント部のトグルスクリュー、
アッセンブリーとバイトフォークの接続部のスクリュー
は、咬合器へのマウントが終わるまでは触らないでくだ
さい。(上写真)

咬合器へのマウント 準備



上顎模型の咬合器へのマウンティングは、トランスファースタンドAX(ATB398)を使用します。
(SAM2P、SAM2PX、SAM3、SAM NEO、SAM SE共通)

※SAM2P以前の咬合器SAM2Cをお持ちの方は、専用のトランスファースタンド2C(ATB457K、取寄せ商品)になります。



下顎弓からインサイザルピンを取り外し、取り外した箇所にトランスファースタンドを差し込み固定します。

※差し込む向きにご注意ください。



トランスファースタンドとトランスファーフォークアッセンブリーをしっかりと奥まで差し込んで固定します。このとき、フェイスボウから外した際と同様に他のネジを緩めないよう注意してください。



準備が完了した図です。
模型によっては、バイトフォークに置くと重みで多少沈むこともありますので、左写真ではテレスコープキャストサポート(ATB336：赤矢印)を使用して沈みを防いでいます。

上顎模型のマウント



上顎模型を圧痕に合わせてバイトフォーク上に乗せます。



マウントの際、コンダイラーハウジングの矢状顎路角、側方顎路角の設定は必要ありませんが、矢状顎路角は30度前後、側方顎路角は5度あたりにしておくとマウントしやすい（安定しやすい）でしょう。



通法に従って石膏を盛り、上顎模型弓を上方から置くようにマウントします。この時、顎頭球がコンダイラーハウジング内の後方にしっかり接していることを確認してください。(左下写真)

咬合器の両サイドにあるネジ(★)を締め、顎頭球を固定して硬化するまで待ちます。(右下写真)



下顎模型のマウント



下顎模型弓に取り付けていたトランスファースタンドを外し、インサイズルピンを付け直します。
バイトの厚みを考慮に入れて1～2目盛りピンをあげます。



上下顎模型弓を反対にして、バイトを噛ませるなどした状態で下顎模型を任意の顎位で固定したら、上顎のマウントと同様に石膏を盛ります。
上顎のマウントの際と同様に、顆頭球がコンダイラーナウジング内の後方にしっかり接していることを確認しながら行なってください。



マウントの完成です。

下の写真のように任意の顎位で下顎模型をマウントする際、不安定であれば模型を抑える補助的な装置もあります。

- ・セントリックマウンティングスタンド(MOH560)／取寄せ商品
- ・モデルスタビライザー(30本) (MOH124)／取寄せ品

※MOH560に予めMOH124は含まれています。

MOH560



各アイテム

ATB350K トランスファーボウキットⅢ-NT



2点留めタイプ

ATB390K トランスファーボウキットAX



1点留めタイプ

上記は、フェイスボウ(ATB303)、ディスポーザブルプレイヤーピースキャップ(ATB240)、ナジオンリレーターAX(ATB394)と、各トランスファーフォークアッセンブリー(ATB395またはATB305)のキットです。トランスファースタンドは付属しておりませんので、別途ご購入下さい。

その他商品は弊社総合カタログまたは、弊社ホームページ(<https://www.jmortho.co.jp>)をご覧ください。

単品

ATB240
ディスポーザブルプレイヤーピースキャップ



ATB303
アキシオクイックアナトミック
トランスファーボウⅢ (フェイスボウ)

ATB395
アキシオマティック
トランスファーフォーク
アッセンブリー



ATB305
トランスファーフォーク
アッセンブリー I-NT



ATB398 トランスファースタンドAX



ATB394 ナジオンリレーターAX



ATB304
アジャスタブルナジオンリレーター(取寄商品)



ATB235
オルビタルリファレンスポインター(取寄商品)



ATB336
テレスコープ キャストサポート





注意事項

◆フェイスボウ使用後、バイトフォークを必ず洗浄・消毒、及び滅菌を以下の手順で行なってください。

1. 流水下でブラシを用いて、付着したコンパウンドや汚れを落とした後、水分を拭き取る。
2. 消毒液をしみこませた柔らかい布で表面を拭いて消毒する。
3. 滅菌を行う。高圧蒸気滅菌(134℃、10分間)を推奨する。

◆薬液消毒を行う時は、薬剤の添付文書に記載された使用上の注意を守ること。

◆滅菌後は、直ちに取出して乾燥させること。

- ◆ ディスポーザブルイヤーピースキャップはフェイスボウを使用毎に交換して、使用済みのものは廃棄してください。

株式会社 JM Ortho

本 社	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-2 御茶ノ水杏雲ビル14F TEL (03)5281-4711 FAX (03)5281-4716
大阪営業所	〒564-0051 大阪府吹田市豊津町15-11 江坂石周ビル3F TEL (06)6338-9271 FAX (06)6338-9380
福岡営業所	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-3-11 KDX博多南ビル6F TEL (092)432-5676 FAX (092)432-5737
